

青葉の森公園芸術文化ホール イベントレポート

EVENT REPORT
当ホール主催の公演・講座の雰囲気
をみなさまに発信する、
「サポーターライタース」の方による
レポートをお届けします。

青葉寄席

あおばよせ

出演

浪曲 玉川 太福

曲師 玉川 みね子

落語

古今亭 志ん松

落語

桃月庵 ひしもち

平成31年

2月10日

[日]

開演 14:00



青

葉の森公園芸術文
化ホール能舞台で
2月10日に『青葉
寄席』が行われました。

ホールに入った瞬間に、能舞

台に目が釘付けになりました。なんて、素敵な空間なんですよ。とても幸せな気分になりました。

まず最初は、桃月庵ひしもちの落語。転失気(てんしき)という題目で、知らないと言えずに思わず知ったかぶりをしてしまった和尚とそれに振り回される小僧の珍念の話です。

医師に「てんしき」があるかと聞かれ、知ったかぶりをしてしまった和尚が珍念に「てんしき」を借りてくるように



命じます。絆余曲折があり、結局は「てんしき」とはおんなのことで医師が和尚の体調を知るために聞いたのでした。いつの世でも、人は知らないとなかなか言えず知ったかぶりをしてしまうものです。

次は玉川太福による浪曲。私にとって浪曲は初めての未知なるものでした。まずは玉川太福により、浪曲の説明があり、演目は新作の「豚次伝」。まず、浪曲のリズムにひきつけられます。お客が1日2人しか来ないという流山動物園

を救おうとする豚の豚次の話です。豚だけでなく、人間の言葉を話す牛の牛太郎やチャボのチャボ子、象などの動物がたくさん出てきます。笑い続けた楽しい時間でした。最後は上野動物園のパンダのパン太郎と戦い、そのときのパンチのおかげでパンダの目の周りは黒くなった。(笑)

私の中で浪曲のイメージがすっかり変わりました。最近落語だけでなく講談も人気ですが・・・日本の芸能は良いものですね。

最後は古今亭志ん松の「松曳き」。

これはそそっかしい大名とそれに輪をかけた粗忽物の家老の三太夫の珍妙なやり取りのお話です。その二人のやり取りに植木屋の八五郎も加わりユーモラスなやりとりが行われます。最初は大名と三太夫が植木屋の八五郎の使い慣れない敬語や3人のユーモラスな会話で引き込まれます。そこに三太夫の屋敷から連絡があり、姉上様御死去の連絡が入り、三太夫は大名の姉上様御死去と思ひ大名に知らせると、大名たいそう悲観にくれました。しかし、それは大名の姉上様ではなく三太夫



写真/サポーター(カメラマン)
田邊 定行

の姉だったとの、まったくもつてのそそっかしさに三太夫は切腹を決意します。ところが最後に大名が自分には姉上がないことに気がつき三太夫の切腹はなくなるといふ、粗忽者同士の憎めない人物だらけのお話です。

千葉県出身のイケメンの志ん松さんの勢いのある松曳きでした。

能舞台で聞く落語・・・次回も必ず来て見たいと思つて帰路につきました。サポーター(ライター)山下千雪